

1/11(土)

こども和文化塾
第2回

風流のはじめ館の小正月
だんごさし

いっしょに
つくろう

黄色はかぼちゃ、
緑色は小松菜、
赤色はピーズで
色づけた団子をまるめて
枝にさしました。

ひょうたん
6つ瓢箪がそろくと、
六瓢(むびょう)息災の
語呂合わせから

めてだ
コマ
物事がうまく回る
お金が回る

あゆみ
おしるこも
食べました。

低い枝にも

だんご

講師
すかがわ昔話の会

だんごや鯛、米俵、大黒様やえびす
様、大判小判などをミズキの枝にさ
して飾り、1年の農作物の実りや幸
せを願う小正月の行事です。

こども和文化塾
第3回

春待ち和菓子教室

2/22
(土)

定員になりました。

お抹茶も
どうぞ

ピンクの餅菓子を塩づけにした
桜の葉で包んだ、ふんわり春の香
りの「桜もち」をつくりまします。

お知らせ

俳句ポスト
投句募集

第二回〆切
一月二〇日(月)

令和7年度
第一回〆切
八月二十七日(水)

文化振興課
公式 Instagram

風流のはじめ館
公式ホームページ

言葉

〇〇はじめ

「書初め」「読初」「初湯」
「着衣はじめ」「初雀」
「初炊ぎ」など新年を迎
えてから初めての行事
を「〇〇はじめ」と言い、
「初」の文字に込めて大
切にしてきました。

福

「福」の文字は、ネ
と雷に分かれていま
す。神さまに捧げた
酒を自分の酒だかに
いたたく「神福」のこ
とで「神さまから授
かる助け」という意
味があります。

雪
中花

せつちゅうか
まだ雪の残る寒さの中
で凛と咲く水仙の別名です。

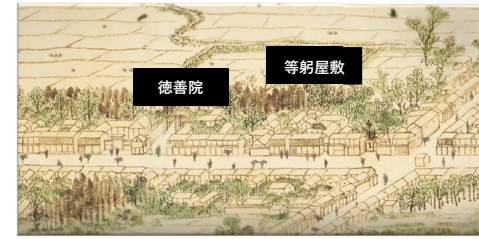
のり巻の日

節分の夜は、その年の恵方に
むかって太巻きを食べると
健康で長生きできるそう。

相楽等躬 さがら とうきゅう
1637-1715

問屋業を営む豪商 須賀川俳諧の祖
石田未得に師事 岸本調和、内藤露沾
らと親交。みちのくの歌枕に通じ各地
に広い人脈を持つ。芭蕉の江戸移住間
もない頃に知り合い、親交を深めた

黒門
宿場のはずれの両端に
治安維持のために設け
られた木戸。脇に番所が
ありました。朝の四時に
開門し、夜間や非常時は
門を閉ざし、人や馬の通
行を制限しました。旅人
は、通行手形を提出して
身分を明らかにします。
枡形が設置され、道路を
クランク状に曲げて外
敵が侵入しにくいよう
にしています。



展示品の紹介

色紙 冬耕の棒となるまで吹かけり
光郎

森川光郎 もりかわみつろう
1926-2024
桔梗吟社名誉顧問。

ふる里須賀川を拠点に20代から
俳句を始め、生涯に渡り、須賀川
の風景を詠み続けました。
代表作
「須賀川に火祭ふたつ冬が来る」

開催中

須賀川
芭蕉と旅する絵図

2024.12.6(金)~2025.3.31(月)

2025.3.31(月)まで



「白河風土記」には十九の町
名が載っています。
等躬屋敷の前の通りは奥州街
道でしたので、お伊勢参りや
西国、四国への巡礼の旅、江戸
へ行く商人が行き交って
いて、いつも賑わっていました。
この辺りの道幅は五間(約九
メートル)、中町はさらに広く
道幅七間(約十三メートル)の
通りでした。

世の人の見付ぬ花や軒の栗
(かくれがやめだたぬ花を軒の栗)

徳善院
徳善院の僧とい
われる可伸こと
栗斎は、本山派修
験年行事として
京都聖護院で、修
行をしてきた修
験者(山伏)といわ
れます。

常設展

てくてく須賀川
芭蕉と旅する絵図

2025
第26号
1月号
<https://s-furyu.jp/>

須賀川宿

一五八九年、須賀川城が落城
した後、急速に大規模な町づ
くりが進められ、宿場町の形
態が整います。江戸時代は古
町(後の本町)、中町、道場町、
北町の四つの町で構成され、
その後、多くの町内ができ、
「白河風土記」には十九の町
名が載っています。

滞
在
3日目
可伸庵で須賀川の俳人を交え、
「かくれがや」歌仙を
巻きました。
俳席のあと、吉田等雲による
蕎麦きりの振舞いを受けました。